



主任コラム2月号

主任 澤井 良子

1月に入り、生活発表会への取り組みが始まりました。各年齢でこれまでに取り組んできたことや、興味のある話、その年齢の発達に応じた「言葉」「表現」などを取り入れています。

日々の保育が異年齢で行われているのは、大きい子が小さい子のお世話をするだけではなく、子ども達が年齢の枠を超えて自分の発達（興味）にあった友達と、発達にあった遊び方をする事でお互いが学びを深めていくことで成長していくこともあります。対して、発表会や運動会が年齢別なのは、その年齢の発達を保護者の方に見て頂くということがねらいでもあります。

練習風景の中でそれぞれの先生が大事にしている部分がみえてきます。子ども達のやりたい役の選択や、意見、アイデア、日々の子ども達が楽しんでいること、体験したことなど1年を通してみて頂けると思います。私が練習を観ていた時に年中児の男の子が『〇〇役の子、上手だった。誰がとかじゃなくみんなが上手』と言ったり、年少児の女の子は『〇〇くん、いつも大きな声で上手なんだよ』と、教えてくれました。そのように友達の姿を見ていいところを褒める言葉を聞いた時に、他の子のいいところを口に出して伝える（表現する）ことは大事だなと感じました。大人も子どもも自分の事を褒められることは心地のいいものです。それぞれの表現の仕方は違っても、その子らしさやいいところを出せたらいいなと思います。初めての市民会館での発表で、緊張から練習の姿が発揮できないこともあると思いますが、本番が全てではなく本番にいくまでの過程が大事だと思っています。子どもたちの姿を丸ごと受け止めていけたらと思います。

生活発表会
楽しみにしててね



先月のコラムでも書いたように、毎日の保育の中で給食のセミバイキングで『自分で自分の食べれる量を伝える』という取り組みをしていますが、他園の見学や研修を参考にして、子ども達に視覚から、量や数が分かるように2歳児の先生にアイデアをもらいながら各クラスにボードを作りました。



これまで2歳児クラスでは『いっぱい』という言葉が多く出ていたのが、このボードを給食の配膳の目にする場所に貼っておくことで『はんぶん』『ちょっと』という自分の食べれる量を伝えられる子が増えた事、パンを『1ぼん』という言葉で伝えるようになってきたという事を聞きました。それぞれ、日によって体調、朝起きた時間や食べたい量も違います。自分の思いを相手に伝えるということを保育の色々な角度から取り入れていきたいと思っています。

